

令和3年度

事業報告書

(自) 令和3年4月 1日

(至) 令和4年3月31日

社会福祉法人 佐賀市社会福祉協議会

目 次

令和3年度事業概要	1 ページ
-----------	-------

社会福祉事業

I. 社会福祉事業拠点区分	2 ページ
1 法人運営事業	
2 地域福祉活動事業	
3 共同募金配分金事業	
4 福祉サービス利用支援事業	
5 生活福祉資金貸付事業	
II. 施設経営事業拠点区分	17 ページ
1 老人福祉センター事業	
2 金立いこいの家事業	
III. 介護保険等事業拠点区分	19 ページ
1 通所介護事業	

公益事業

IV. 認可外保育施設運営拠点区分	19 ページ
1 松梅保育所運営事業	

その他の事業

V. その他の事業	19 ページ
1 共同募金・歳末たすけあい募金運動への協力	
2 日本赤十字社事業の推進	

令和３年度事業概要

佐賀市社会福祉協議会では、佐賀市と連携して策定した「第４期佐賀市地域福祉計画・地域福祉活動計画」（計画期間：令和３年度～令和７年度）の３つの基本目標である「みんなの主体的な活動を促す地域づくり・人づくり」、「地域で安心安全な暮らしを支える体制づくり」、「福祉サービスにつながる体制・仕組みづくり」の達成を目指して、令和３年度において地域福祉を進めるためのさまざまな事業に取り組みました。

特に、計画の重点事業である“包括的な支援体制の整備”を図るために、福祉まるごと相談窓口の業務にあたるとともに、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業において、コミュニティソーシャルワーカーにより個別の制度につながりにくい課題等に関して、継続的につながり続ける伴走型支援を実施しました。

その他、既存の福祉の取り組みでは対応できない狭間に対応するため、本人の福祉ニーズと地域資源との間をつないだり、地域における多世代の交流や多様な活躍の場を確保する地域づくりにむけた支援を実施したところです。

このような取り組みは“地域共生社会の実現に向けた取り組み”であり、そのために令和３年度から、本所・南北連絡所体制への移行により、職員が地域に積極的に出向き、地域の皆さんと一緒に地域の生活課題の解消や、地域福祉の向上に向けて活動しました。

さらに、要援助者に対する権利擁護の観点から、福祉サービス利用援助事業（あんしんサポート）や成年後見制度事業においては、個人の生活の質（ＱＯＬ）の向上を図ることに重点を置く支援を行い、住みなれた地域で生活が送れるように努めました。

こうした取り組みの他、令和３年８月に発生した大雨災害においては、災害ボランティアセンターを設置し、災害ボランティアの派遣コーディネートを行い、延べ２３件の世帯の支援を行い、被災された世帯の生活再建に向けた活動を行いました。

社会福祉事業（439,177,878 円）

I. 社会福祉事業拠点区分（333,664,485 円）

1 法人運営事業（162,550,757 円）

（1）役員会開催状況

- ① 第1回理事会 令和3年6月7日（出席12名 欠員1名）
 - 第1号議案 令和2年度事業報告並びに資金収支決算について
 - 第2号議案 役員（理事・監事）の選任候補者の推薦について
 - 第3号議案 評議員の選任候補者の推薦について
 - 第4号議案 評議員選任・解任委員会委員の補充選任について
 - 第5号議案 評議員選任・解任委員会の招集について
 - 第6号議案 苦情解決第三者委員の選任について
 - 第7号議案 令和3年度定時評議員会の招集について
 - 第8号議案 佐賀市社会福祉協議会会長及び副会長の報酬に関する規程の一部改正について
- ② 第2回理事会 令和3年6月25日（出席11名 欠席2名）
 - 第1号議案 会長、副会長及び常務理事の選任について
- ③ 第3回理事会（書面同意） 令和3年10月12日付（理事13名全員の同意）
 - 第1号議案 令和3年度第1回資金収支補正予算について
- ④ 第4回理事会 令和3年12月22日（出席11名 欠席2名）
 - 第1号議案 令和3年度第2回資金収支補正予算について
- ⑤ 第5回理事会 令和4年3月23日（出席12名 欠席1名）
 - 第1号議案 令和3年度第3回資金収支補正予算について
 - 第2号議案 令和4年度事業計画並びに資金収支予算について

（2）評議員会開催状況

- ① 定時評議員会 令和3年6月25日（出席17名 欠席5名 欠員1名）
 - 第1号議案 令和2年度事業報告並びに資金収支決算について
 - 第2号議案 役員（理事・監事）の選任について
 - 第3号議案 佐賀市社会福祉協議会会長及び副会長の報酬に関する規程の改正について

（3）評議員選任・解任委員会開催状況

- ① 第1回評議員選任・解任委員会 令和3年6月15日（出席4名）
 - 第1号議案 評議員の補充選任について

（4）監査状況

- ① 令和2年度事業・会計監査
令和3年5月19・20日

（5）苦情の受付及び解決状況

苦情解決システム管理要綱に基づき、利用者等からの苦情について適切な解決を図った。
(対応件数6件)

（6）福祉バスの運行

団体会員として登録している市内の各種福祉関係団体・サロン等が、研修・ボランティア活動等を行う際、円滑な活動ができるよう、マイクロバスの運行を行った。
運行件数：115件

（7）実習生の受け入れ

種 別	人数	実習期間	学校・事業所
社会福祉士 介護実習	4名	各5日	西九州大学短期大学部

看護学科学生 老年看護基礎実習	4名	1日	佐賀県立医療センター好生館
社会福祉士	3名	23～24日	長崎国際大学、西九州大学、久留米大学
介護福祉士	8名	5日	西九州大学短期大学部
老人センター見学実習	26名	1日	佐賀県医療センター好生館看護学院

※R2 実績

種別	人数	実習期間	学校・事業所
社会福祉士	3名	23～24日	長崎国際大学、西九州大学
老人センター見学実習	27名	1日	佐賀県立総合看護学院

【評価・課題】

社会福祉法に定められた社会福祉法人の目的を達成するために、運営基準に則して適切な運営を行った。事業並びに運営のために必要な財源確保が課題である。

2 地域福祉活動事業（118,239,517円）

（1）企画・広報費（3,299,716円）

① 佐賀市福祉功労者表彰式（佐賀市社会福祉大会の代替え）

蔓延防止等重点措置など、コロナウィルス感染拡大予防のため中止した。

表彰15名1団体 感謝状3名5団体へ本会より直接表彰状及び感謝状を届けた。

② 社協だより“愛・あい”

社会福祉協議会の事業を広く市民に知らせ、また理解と協力を求めるため、年4回（春・夏・秋・新春号）市内全世帯及び事業所に配布した。

③ ホームページの運用

佐賀市社会福祉協議会の事業・活動を広く市民に知らせ、また理解と協力を求めるため作成・公開した。

（2）地域福祉活動計画策定事業（45,172円）

策定推進委員会（第1回）を開催し、第4期地域福祉活動計画（令和3年～令和7年）の説明、進捗状況を報告。また、重点事業となる「重層的支援体制整備」について説明し、今後の地域福祉活動計画を推進していく中で、委員より意見をいただき協議を行った。

（3）ボランティアセンター事業（1,789,850円）

ボランティアセンター事業

市民のボランティアへの参加を促進するとともに、ボランティアの活動基盤を図った。また、佐賀市ボランティア連絡協議会（登録8団体）の充実を図るため、年4回（6月・10月・12月・3月）の役員会を実施し、それぞれの団体の活動への助言やそれぞれの団体に所属しているボランティア団体等に対しても情報共有を図っていった。

① センター運営事業

・ ボランティアコーディネート機能の強化

市民からのボランティア活動に関する様々な相談に応じるとともに、ボランティア活動の活性化とニーズの把握、調整に努めた。

・ 各ボランティア連絡（推進）協議会及びボランティア団体等との連携

各ボランティア連絡（推進）協議会やボランティア団体が開催する事業・研修会・定例会等への協力・連携を図った。及び、ボランティア連絡協議会の事務局を担い、ボランティア団

体相互の交流を目的として、交流会の企画、立案を行った。

・ ボランティア活動保険の活用促進

登録団体のボランティアが安心して活動に取り組めるよう、ボランティア活動中の事故に備えてボランティア活動保険に関する情報提供を行うとともに、保険加入や事故受付事務を行った。 加入受付：138団体、2430名 事故申請：5件

② 助成事業

・ ボランティア活動（団体、協力校、連絡協議会等）の助成

社会福祉への理解と関心を深め、ボランティア精神を育む事を目的に学校における取り組みに対し、助成を行った。また、福祉活動の振興を図るため、佐賀市を拠点に社会福祉事業を行っているボランティア団体等に対して、活動に要する経費の一部を助成した。

助成校：1校（中学校：1校）

ボランティア団体：33団体 ボランティア連絡[推進]協議会：7団体

③指導派遣事業

・ 福祉体験学習指導者派遣事業

地域、企業、学校等で開催される福祉総合学習（車椅子介助、アイマスク体験、高齢者疑似体験等）に指導者（クローバーの会）を派遣し、福祉教育の推進を図った。

種別	講座数（回）	派遣先	
アイマスク	61	【小学校】	【中学校】 【企業・地域団体】
高齢者疑似体験	65	・ 諸富北小 ・ 思斉小	・ 金泉中 ・ いなほ会
車椅子体験	59	・ 中川副小 ・ 勸興小	・ 致遠館中 ・ セルフ
		・ 諸富南小 ・ 富士小	・ 成章中 ※ボランティア団体
		・ 高木瀬小 ・ 嘉瀬小	・ 城西中
		・ 北川副小 ・ 巨勢小	・ 城南中
		・ 南川副小 ・ 鍋島小	
合計	185	・ 東与賀小 ・ 新栄小	
		・ 兵庫小 ・ 赤松小	
		・ 開成小 ・ 春日小	
			合計 25件

（４）災害ボランティアセンター事業（2,217,262円）

発災時、市民から復旧・復興活動が求められた場合に備え、速やかに活動の拠点となる災害ボランティアセンターを立ち上げ、被災者へのボランティア支援を行えるよう体制づくりを図った。

・ 佐賀市災害ボランティアセンター立ち上げ

災害ボランティアセンターで募ったボランティアを佐賀市内で被災された世帯へ派遣し生活再建に向けた活動を行った。

期日：令和3年8月19日～10月31日

ニーズ件数：延23件

ボランティア数：147名

（５）高齢者ふれあいサロン事業（23,702,356円）※佐賀市委託

高齢者が住み慣れた地域や家庭で安心して暮らせるように、地域住民の協力により地域の様々な施設（地区公民館、集会所等）を利用し、高齢者や地域住民が気軽に集い、お互いに交流を深め、生きがいづくりや健康づくりを推進し、高齢者が閉じこもりや寝たきりにならないよう、自立生活の助長を図ることを目的に実施されるサロンに対し運営費の助成、また、併せてサロン設立や運営の支援等を行った。

なお、新型コロナウイルス感染拡大予防による自粛のため、開催及び参加者数は減少している。

令和3年度 新規1ヶ所 廃止9ヶ所（令和2年度 新規8ヶ所 廃止3ヶ所）

地区名	サロン数	開催数	参加者数	助成額(円)
勸興	4	27	485	310,000

循 誘	14	114	1,994	1,021,345
日 新	7	53	1,032	530,000
赤 松	3	36	495	220,000
神 野	12	96	1,966	943,196
西与賀	11	100	1,856	810,509
嘉 瀬	5	25	314	250,187
巨 勢	5	57	938	400,000
兵 庫	12	103	1,337	820,981
高木瀬	9	80	2,241	780,000
北川副	12	154	2,282	940,000
本 庄	8	88	1,575	627,725
鍋 島	5	116	1,451	360,000
金 立	7	150	1,765	560,000
久保泉	2	12	282	156,270
蓮 池	4	39	511	300,000
新 栄	10	421	6,012	870,000
若 楠	3	15	212	191,030
開 成	8	445	4,045	569,633
諸 富	15	200	4,015	1,220,823
大 和	23	376	5,128	1,695,801
富 士	6	56	950	428,470
三 瀬	6	56	719	420,000
川 副	25	283	3,937	1,840,023
東与賀	4	22	413	262,027
久保田	10	151	1,809	770,000
合 計	230	3,275	47,764	17,298,020
令和2年度実績	238	3,385	50,341	17,584,540

(6) 地域子育て支援センター事業 (11,820,062 円)

令和3年度から大和を広場の拠点(5日)として、富士と東与賀(2日)で出張広場を実施した。子育て中の親子が気軽に集うことができる広場を身近な地域に設置し、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちの支援を行った。

① 子育て親子への交流の場の提供と交流の促進

• 交流の場の提供

子育て親子が自由に利用できる交流の場を設置した。

広場名	開館 日数	乳幼児数 (延人数)	保護者数 (延人数)	ボランティア数 (延人数)
ふれあい広場(大和)	215	2,865	2,429	6
ふれあい広場(富士)	82	552	404	67
ふれあい広場(東与賀)	81	180	156	1

※赤ちゃん広場については今年度で終了となる。

• 交流の促進

地域のボランティアグループの協力により、「子育てサロン」を実施し、子育て親子や地域の方との世代間交流を図った。

ひろば名	実施 回数	乳幼児数 (延人数)	保護者数 (延人数)	ボランティア数 (延人数)
ふれあい広場(大和)	29	231	205	16
ふれあい広場(富士)	20	200	168	33
ふれあい広場(東与賀)	11	83	75	0

② 子育て等に関する相談、援助の実施

子育てについて不安を抱えている親の相談に応じるとともに、定期的に専門家による「乳幼児育児・発育相談」や子育てに役立つ講座を実施することにより、子育て不安の解消を図った。

(単位：件)

	相談内容別					形態別			合計
	育児	就園	親の問題	家族	地域	来所	電話	その他	
大和	76	24	4	5	20	100	1	28	129
富士	5	1	0	0	5	11	0	0	11
東与賀	8	2	0	0	0	10	0	0	10

③ 地域の子育て関連情報の提供

子育てに関する情報や支援センターのイベント等を紹介する情報紙スマイルファミリー（発行月 6 月、8 月、10 月、12 月、2 月）を発行し、各校区公民館、児童センター、行政、市立図書館等に情報提供を行った。併せて市報等にも各広場で実施しているサロンや行事等の情報提供を行った。

④ 子育て及び子育て支援に関する講習等

子育て中の保護者を対象に、子どもの足を守るための足育講座を実施した。（参加者：延 29 名）

⑤ サークル支援の実施

地域にある施設等に出向き、クリスマス会でハーモニカ演奏・手遊び等を行い地域との交流を図った。

⑥ 地域支援の一環として、出張サロンをおこなった。

開催場所（内容）	実施回数	乳幼児数 (延人数)	保護者数 (延人数)
三瀬（タッチケア）	1	9	7
久保田（タッチケア・足かたアート）	2	9	10
西川副（タッチケア・足かたアート）	2	9	9
諸富（タッチケア・足かたアート）	2	12	12

(7) 多機関協働による相談支援包括化推進事業（22,069,266 円）※佐賀市委託

福祉まるごと相談窓口（佐賀市役所 1 階 14 番）に専任の相談支援包括化推進員を 2 名配置し、各分野（高齢・障がい・子ども・生活困窮など）、単独の相談支援機関での対応では支援が困難な複雑化・複合化した課題を抱える世帯（人）の相談に応じるとともに、分野を超えた相談支援機関等のネットワークを構築し、関係機関による連携した支援につなげた。

◆相談件数 延べ相談件数 812 件中

	延べ相談件数
R 3 年度	976
R 2 年度	812

同左 812 件中 (①+②) (単位：件)

新規相談	解決・改善①	継続支援中②
546	740	72
610	829	147

◆相談者（新規相談 546 件中）

(単位：件)

本人・親族	221
地域（民生児童委員、自治会、近隣住民など）	12
関係機関（市社会福祉協議会（CSW・貸付）、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、就労支援事業所、障がい者権利擁護センター、県障がい者総合福祉センター、家計見直し相談室、スクールソーシャルワーカー、ひとり親支援団体、県女性相談センター、SSF、地域若者サポートステーション、医療機関、県高次脳機能障がい者支援センター、市民活動プラザ、ハローワーク、中部保健福祉事務所、法テラス、警察、公営住宅担当部署、不動産会社など）	86
佐賀市役所内（総務部、建設部、市民生活部、保健福祉部、子育て支援部など）	227

◆調整先機関（解決・改善 740 件中）

(単位：件)

本人・親族	197
-------	-----

地域（民生児童委員、自治会、近隣住民など）	6
関係機関（市社会福祉協議会（C S W・貸付・権利擁護）、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、県精神保健福祉センター、生活自立支援センター、家計見直し相談室、えびすワーク、居住支援団体、地域若者サポートステーション、県ひきこもり支援センター、医療機関、ハローワーク、県社会福祉士会、中部保健福祉事務所、法テラス、医療安全支援センターなど）	268
佐賀市役所内（建設部、市民生活部、保健福祉部、子育て支援部など）	269
合計	740

◆相談支援包括化推進会議の開催

代表者会議 ※新型コロナウイルス感染症予防の観点から開催見送り	0 回
実務担当者会議 ●第1回 「暮らしを支える支援の輪 ～生活の基盤“住”の視点から考える～ パートⅠ」 講師：特定非営利活動法人 空家・空地サポートSAGA 期日：令和3年5月18日 参加者：21名 ●第2回 「暮らしを支える支援の輪 ～生活の基盤“住”の視点から考える～ パートⅡ」 講師：特定非営利活動法人 空家・空地サポートSAGA 期日：令和4年3月	2 回
個別ケース検討会議	20 回 (うち主催 15 回)

(8) 地域力強化推進事業 (40,939,544 円) ※佐賀市委託

・今年度から市内32校区を北部エリア、中部エリア、南部エリアの3つに分け、各エリアのリーダーを中心に3人の担当職員（C S W）によるアウトリーチと伴走型により個別支援を実施。エリア内では常に情報を共有に努め、地域での会議や行事などに積極的に参画していった。また、積極的に各専門機関等と情報共有を図り、地域住民とも協力しながら地域課題の早期発見や解決に努めた。

<個別支援>

◆延べ支援件数（相談件数及び支援件数）

(単位：件)

	支援	新規相談	解決改善	調整
R3年度	2, 662	78	12	117
R2年度	1, 805	97	140	49
R元年度	1, 376	68	68	87

◆相談者年齢

(単位：件)

30代以下	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
14	26	38	20	17	14	0

◆相談内容

(単位：件)

病気	19	社会的孤立(ニート・ひきこもり含む)	31
けが	3	家族関係・家族の問題	28
障害(手帳有)	27	介護	6
障害(疑い)	34	子育て	2
自殺企図	1	不登校	2
その他メンタルヘルス (うつ・不眠・不安・依存症・適応障害)	19	ひとり親	2
住まい不安定	17	DV・虐待	6
経済的困窮	66	刑余者	1

(多重・過重) 債務	1 8	コミュニケーションが苦手	2 8
家計管理の問題	2 7	本人の能力の課題 (識字・言語・理解等)	2 0
就職活動困難	2 1	近所とのトラブル	2 1
就職定着困難	1 1	その他	4
生活習慣の乱れ	1 4		

◆連携機関

地域	自治会長、民生委員、知人、近隣住民 等
関係機関	佐賀市役所、地域包括支援センター、高齢者関係事務所、佐賀市生活自立支援センター、佐賀中部保健所、医療機関、成年後見人、警察、障がい者関係事業所、フードバンク、住居支援事業所、ハローワーク 等

◆情報共有会議への出席 (主催)

(単位: 件)

行政	他機関	多機関	合計
1	2 1	7	2 9

<地域支援>

◆延べ支援件数 2, 7 8 1 件

◆新たな仕組みづくり支援

地域が自らの校区 (地区) に新しいしくみづくりを進める際に、地域担当 (C S W) として支援した。

(単位: 件)

福祉協力員設置	6 0	神野、嘉瀬、高木瀬、鍋島、蓮池、三瀬、久保田
高齢者サロン開設	1	鍋島
コミュニティカフェ開設	2	北川副
コミュニティカフェ (お試し)	1	巨勢
校区社会福祉協議会設立	3	大詫間、南川副、西川副
合計	6 7	

(9) 地域福祉活動推進事業 (12, 356, 289 円)

① 本所

・各福祉団体助成

佐賀市における福祉活動の振興を図るため、社会福祉事業を目的とする福祉団体等の事業及び運営に要する経費に対して助成金を交付した。

◆運営費助成 (7 団体) …佐賀市遺族連合会、佐賀市原爆被害者の会、佐賀市視覚障害者福祉協会、佐賀市肢体不自由児・者父母の会、佐賀市身体障害者福祉協会連合会、佐賀市母子寡婦福祉連合会、佐賀市老人クラブ連合会

◆事業助成

佐賀市自治会協議会研修費 (佐賀市自治会協議会)

佐賀心理リハビリテーションキャンプ (佐賀若楠ふたばの会)

・児童遊園地整備助成

市内地区自治会が児童福祉対策として、児童遊園地の新設、増設及び補修を行った場合、市とともに助成金を交付した。

校 区	設置数 (件)	助成額 (円)	校 区	設置数 (件)	助成額 (円)
西与賀	1	20, 100	嘉 瀬	2	120, 000
巨 勢	1	26, 400	北川副	1	52, 400
本 庄	1	9, 900	蓮 池	1	60, 000

諸 富	1	39,900	春 日	2	149,500
川 上	2	100,600	中川副	3	113,800
東与賀	4	177,000	合 計	1 9	869,600

・ 民生委員・児童委員支援事業

毎月の市民児協役員会及び会長会、地区民児協定例会に参加し、住民の福祉にかかわる地域福祉活動の推進を行っている民生委員児童委員の活動に対し支援・協力を行った。

・ 校区（地区）社協への運営費助成

「自分たちの地域の福祉課題は、まず自分たち自身で取り組もう。」という住民意識をもとに、小地域福祉活動を担う基礎組織として設置されている市内 29 の校区（地区）社会福祉協議会に対し協働で地域づくりに対しての支援と協力を行った。

◆校区（地区）社会福祉協議会運営助成金

各校区社会福祉協議会の運営・活動ができるように、佐賀市と協働し、助成を行った。

◆令和 3 年度の新たな校区（地区）社会福祉協議会の設置

校区（地区）	設立年月
大詫間校区社会福祉協議会	令和 3 年 6 月
南川副校区社会福祉協議会	令和 3 年 9 月
西川副地区社会福祉協議会	令和 4 年 2 月

◆校区（地区）社会福祉協議会役員会・会長会の開催

校区（地区）社会福祉協議会相互の連携や新しく設立した校区（地区）社会福祉協議会との調整を図るなど、校区（地区）社協の活動推進及び支援を行った。

◆役員会（5 回）会長会（5 回）

・ 福祉協力員等設置推進支援事業

地域の実状に応じた福祉協力員の設置に向けた取り組みについて支援を行った。

	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度
福祉協力員数	2,088 名	2,206 名	2,278 名
地区数	22 校区	22 校区	23 校区

・ 小災害罹災世帯に対する見舞

災害により罹災者が物的・精神的な援護が必要な状況において、自力更生の一時的な援助を図るため見舞金及び見舞品を支給した。

	発生件数	罹災世帯数	罹災人数	見舞金（円）
火 災	6 件	10 世帯	13 人	190,000

【評価・課題】

今年度より、市内を 3 つのエリアに分け、チーム制で地域担当職員（CSW）を配置し、アウトリーチを中心に個別支援及び地域支援を行った。さらに、社協の活動実績や事例等の報告（かわら版）をするなど可視化にも努めた。

市内 3 2 校区の中で、校区（地区）社協の未設立校区が 3 校区あるため、引き続き市内全域への設立に向けて準備していきたい。

3 共同募金配分金事業（18,438,680 円）

（1）歳末助け合い配分事業（7,427,809 円）

前年度、運動期間中（12 月 1 日から 1 ヶ月間）に集まった募金を共同募金会佐賀市支会に設置した配分委員会に諮り、住民ニーズに応じた事業を展開した。

また、コロナ感染症拡大防止のため、事業縮小や中止の事業があったため、368,282 円を県共募に返還し、次年度に繰り越した。

◆年末・年始地域福祉事業

各校区社会福祉協議会等が自らの福祉課題に応じて行う年末・年始の事業に対し、助成を行うことで、地域での特性を活かした住民同士の交流を深めることができた。

地区名	事業内容	助成額(円)
勸 興	一人暮らし高齢者へ年賀状、地域福祉交流祭（勸興まちの駅）、ふれあい親子しめ縄づくり、ふれあいの集い、ほんげんきょう	164,000
循 誘	もうすぐ正月祭	246,000
日 新	日新ライトファンタジー、しめ縄作り	282,000
赤 松	一人暮らし高齢者年賀状作成・配布、餅つき・しめ縄・門松作り、佐賀さいこうフェス水鏡プロジェクト	309,000
神 野	ふれあいサロンスタッフ研修会、一人暮らし高齢者交流会、ひとり暮らし高齢者クリスマスプレゼント、男性健康維持研修会	252,000
西与賀	一人暮らし高齢者と児童との年賀状交流、一人暮らし高齢者と地域住民との訪問交流、しめ縄作り講習会	326,304
嘉 瀬	しめ縄づくり指導者講習会、一人暮らし高齢者へしめ縄配布、高齢者世帯年賀状作成配布、異世代交流会（餅つき）	192,000
巨 勢	グランドゴルフ大会、ミニ門松づくり、小学校昔遊び教室	86,000
兵 庫	友愛年賀状配布、一人暮らし高齢者クリスマスプレゼント、兵庫児童クラブとの交流会	210,000
高木瀬	高齢者へのクリスマスプレゼント、三世代交流事業、こんにちは赤ちゃん訪問、友愛活動（誕生カード・プレゼント届）、一人暮らし高齢者会食会	436,687
北川副	共に支え合う地域福祉の研修会、児童と高齢者のしめ縄づくり、友愛年賀状事業、健康マージャン教室・大会	315,000
本 庄	グリーディングカード作成・配布（一人住まい高齢者）	250,000
鍋 島	独居高齢者への年賀状配布、花壇づくり・花いっぱい美化活動、鍋島小親子交流会、グランドゴルフ大会、住民交流・イルミネーション設置	536,000
金 立	一人暮らし高齢者ふれあいの集い	129,000
久保泉	ほんげんきょう	68,000
蓮 池	芙蓉小生徒へ文房具クリスマスプレゼント	58,000
新 栄	ふれあいグランドゴルフ大会、年末福祉交流餅つき大会、ほんげんぎょう、クリスマスイルミネーション	244,000
若 楠	ほんげんぎょう、校区新年交流会、年末独居高齢者訪問・お困りごと相談、世代間交流会（クリスマス会）、高齢者等防災講座・認知症予防講習等、年末親睦スポーツ大会	427,000
開 成	ほんげんきょう、高齢者へ年賀状配布、年末年始サロン交流会	200,000
諸 富	いきいきはつらつ交流会、餅つき・鏡餅配布事業	357,998
春 日	春日校区高齢者訪問安否確認事業	204,000
春日北	高齢者世帯等ふれあい会食会	243,000
川 上	高齢者世帯等ふれあい会食会	168,000
松 梅	松梅校区高齢者訪問安否確認事業、松梅中学部激励会	39,000
富 士	高齢者世帯安否確認及び餅配布、お屠蘇作りと児童・高齢者交流会	151,000
三 瀬	世代間交流事業（メッセージカード・正月飾り作り）、一人暮らし高齢者鏡餅配布	48,000
南川副	小学生と高齢者とのふれあい交流会	139,000
西川副	西川副小感謝の気持ちを伝えようプロジェクト	128,000
中川副	ふれあい親子クラフト活動（一人暮らし高齢者へ配布）	76,000
大詫間	餅つき交流会	39,500

東与賀	歳末訪問交流事業、餅つき大会、しめ縄作り	314,852
久保田	絵手紙カレンダー作成、世代間交流事業（しめ縄づくり）	159,121
	歳末助け合い配分事業事務費	261,065
合 計		7,059,527

（２）共同募金配分金事業（11,010,871 円）

- ① 佐賀県共同募金会の配分委員会の議決に基づく佐賀市社会福祉協議会への配分金事業として地域福祉推進事業や地域テーマ事業の福祉のまちづくり支援事業を行った。

また、コロナ感染症拡大防止のため、事業縮小や中止の事業があったため、700,000 円を県共募へ返還し、次年度へ繰り越した。

[全事業]

事業名	事業額(円)	配分金充当額(円)
校区社会福祉協議会運営費助成	7,215,510	4,300,990
福祉のまちづくり支援助成事業	1,333,965	1,333,965
自治公民館備品整備助成事業	1,458,959	1,458,959
地域応援研修会	64,301	64,301
生活支援困難者支援事業	88,262	88,262
地域福祉奨励助成事業	1,037,263	1,037,263
在宅高齢者会食会等助成事業	763,780	763,780
新たな居場所づくり（コミュニティカフェ）	121,320	121,320
社協だより“愛あい”の発行	4,568,124	1,142,031
合 計		10,310,871

- ② 福祉のまちづくり支援事業助成

申請団体	事業名	事業総額(円)	配分額(円)
循誘校区自治会長会	地域福祉推進拡充事業	220,000	176,000
赤松校区社会福祉協議会	地域福祉推進拡充事業	153,549	122,000
嘉瀬校区社会福祉協議会	安心・安全なまちづくり支援事業	142,450	113,000
巨勢町自治会長会	安心・安全なまちづくり支援事業	141,350	113,000
北川副地区民生委員児童委員協議会	地域福祉推進拡充事業	105,000	84,000
鍋島校区社会福祉協議会	安心・安全なまちづくり支援事業	155,480	124,000
川上校区自治会長会	安心・安全なまちづくり支援事業	142,560	114,000
中川副校区自治会長会	安心・安全なまちづくり支援事業	330,000	240,000
久保田自治会長会	安心・安全なまちづくり支援事業	330,000	240,000
合 計		1,720,389	1,326,000

- ③ 自治公民館備品整備助成事業

校 区	申請団体	整備備品	事業総額(円)	配分額(円)
循 誘	下今宿自治会	テレビ	54,280	43,000
日 新	精町自治会	エアコン	231,000	50,000
	西田代町自治会	テーブル	74,580	50,000
西与賀	城西団地自治会	テーブル・椅子	94,864	50,000
巨 勢	高尾宿自治会	テーブル・椅子	123,937	50,000
兵 庫	北修理田自治会	椅子	60,225	48,000
	夢咲自治会	テーブル・椅子	248,600	50,000
高木瀬	平尾自治会	ホワイボード	49,170	39,000
北川副	山津自治会	冷蔵庫	69,800	50,000
	南佐賀自治会	テーブル	65,780	50,000

本 庄	西川内自治会	椅子	75,328	50,000
	鹿子下自治会	座椅子	59,600	47,000
鍋 島	医大東自治会	掃除機	78,650	50,000
金 立	大野原自治会	掃除機	49,800	39,000
久保泉	上和泉一自治会	冷蔵庫	107,800	50,000
若 楠	八丁畷自治会	エアコン	182,930	50,000
開 成	開成六丁目自治会	手すり	165,000	50,000
春 日 春日北	五領自治会	ホワイドボード	58,300	46,000
	北原二区自治会	温泉洗浄便器	97,200	50,000
川 上	久留間自治会	椅子	63,000	50,000
	川上自治会	エアコン	539,000	50,000
松 梅	下田自治会	掃除機	63,225	50,000
富 士	鎌原自治会	座椅子	78,760	50,000
	上合瀬自治会	テーブル・椅子	607,640	50,000
三 瀬	池田自治会	座椅子	68,354	50,000
南川副	南 24 区南自治会	テレビ	58,080	46,000
	南 25 区自治会	ホワイドボード	55,220	44,000
西川副	坂井自治会	座椅子	56,870	45,000
久保田	搦東自治会	掃除機・電子レンジ	54,747	43,000
	永里自治会	ホワイドボード	71,500	50,000
配分事務費				18,959
合 計			3,663,240	1,458,959

④ 在宅高齢者等会食会・訪問交流助成事業

地域の高齢者が公民館等で会食の機会を通して、地域の見守りのための「気づき・実践の場」となることを目的に、地区社協、地区民協等が行う会食会に対し助成を行った。

地区名	実施団体	開催数		参加者数		助成額(円)
		訪問	会食会	訪問交流	会食会	
勸 興	勸興校区社協	-	1	-	83	24,900
循 誘	循誘校区社協	-	2	-	169	50,700
日 新	日新校区社協	1	-	370	-	55,500
赤 松	赤松校区社協	1	-	545	-	81,750
嘉 瀬	せいらんボランティア	1	1	40	28	14,400
巨 勢	ボランティア巨勢	-	6	-	161	48,300
	巨勢地区民児協	1	-	160	-	24,000
兵 庫	兵庫校区社協	-	1	-	74	22,200
高木瀬	高木瀬地区民児協	1	-	105	-	15,750
北川副	ボランティア北川副	-	11	-	512	153,600
	北川副校区社協	1	-	247	-	37,050
鍋 島	ボランティア鍋島	2	-	528	-	79,200
久保泉	いずみボランティア	1	-	131	-	19,650
新 栄	新栄ボランティア	1	-	202	-	30,300
開 成	開成ボランティアひまわり	2	-	598	-	89,700
大詫間	大詫間校区社協	1	-	40	-	6,000
合計		13	22	2,966	1,027	753,000

※今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により会食会の開催を中止された地域もあったが、その代替えとして訪問交流活動に変更して地域住民の見守りに繋がる活動を実施された。

⑤ 地域応援研修会

「これからの地域福祉活動を共に考える」をテーマに校区社会福祉協議会等が新たな仕組みづくりや取り組みについて考える機会を設けることで、地域共生社会の実現に向けた地

域の取り組みや地域住民の相互連携を高めることを目的に研修会を開催した。

期 日 令和3年12月2日（木）

参加者 119名

講 演 「身近な地域住民と共に ささやかな幸せを感じられる地域づくりを
目指して～太良町の実践報告」

講師：社会福祉法人 太良町社会福祉協議会

⑥ 生活困窮者支援事業

緊急的または一時的に食料等の確保できなくなった人（世帯）に対して、いのちを守ること
を最優先に食料品やベビー用品、さらに生活用品等を支給した。また、必要に応じフードバン
ク、生活困窮自立支援センター、市生活福祉課、地域包括支援センター等とも連携しながら支
援を行った。

（令和3年度実績）

食料等支援件数：78世帯

支援人数（延べ）：143人分

（令和2年度実績）

食料等支援件数：105世帯

支援人数（延べ）：150人分

⑦ 新たな居場所づくり事業（コミュニティカフェ）

地域の繋がりを再構築していくために、誰もが集える居場所づくり（コミュニティカフ
ェ）の推進を図った。

	R元年度	R2年度	R3年度
カフェ設置数	24カ所 (13校区)	28カ所 (14校区)	30カ所 (14校区)
（うち新規）	8カ所	4カ所	2カ所

【評価・課題】

共同募金並びに歳末たすけあい募金配分金が、地域福祉推進団体（校区社協、民生委員・児
童委員協議会、自治会、ボランティア団体等）の活動財源として活用され、地域福祉の推進に
つながった。

今後も、地域福祉推進団体と協議連携しながら、貴重な地域福祉推進の財源である配分金の
有効活用を図って行く。

4 福祉サービス利用支援事業（18,904,759円）

① 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）（12,523,089円）

- 「福祉サービス利用者の利益の保護」を図ることを目的に、認知症高齢者、知的障がい者、精
神障がい者など判断能力が不十分な方が安心して自立した地域生活を送れるよう、福祉サービ
スの利用援助等を行い支援した。

相談、新規契約・解約件数（令和4年3月末現在）

（単位：件）

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
相談・問合せ	2,006	1,278	2,207	2	5,493
令和2年度	1,890	1,468	1,749	0	5,107
新規契約	13	3	4	0	20
令和2年度	11	1	6	0	18
解約	13	4	3	0	20
令和2年度	8	1	6	0	15

◆契約者数（令和4年3月末現在）

（単位：人）

支所名	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	相談実績 (件/年)	延支援件数 (件/年)
-----	------------	------------	------------	-----	----	---------------	----------------

本所	37	43	27	1	108	5,250	1,969
北連絡所	3	1	0	0	4	29	50
南連絡所	6	3	5	0	14	160	264
合計	46	47	32	1	126	5,439	2,283
令和2年度末	51	46	30	2	129	5107	2,193

② 法人後見事業（4,080,600 円）

・法人（成年）後見人等として、身上監護や財産管理などの生活全般を継続的かつ長期的に支援し、被後見人等の権利擁護並びに意思決定支援を重視し、関係機関と連携・調整を行いながら後見業務を実施した。

◆受任件数（令和4年3月末現在）

	受任件数	類型内訳		
		後見	保佐	補助
令和3年度	25件 (延受任件数41件)	15件 (うち市長申立件数13件)	9件 (うち市長申立件数3件)	1件 (うち市長申立件数0件)
令和2年度	23件 (延受任件数36件)	15件 (うち市長申立件数13件)	7件 (うち市長申立件数2件)	1件 (うち市長申立件数0件)

◆支援件数・支援内容

	後見	保佐	補助
支援件数	176件	92件	15件
支援内容	・定期的または突発的な対処のための訪問 ・日常生活に係る料金、利用料の支払い ・施設、病院等の利用契約 ・各福祉サービスの利用契約手続き ・相続関係手続き ・年金、金融機関等の手続き ・福祉・医療機関との調整会議 ・生活保護の申請手続き ・法的な手続き等 ・後見等終了後の親族、関係者への引継ぎ		

③佐賀市成年後見制度利用支援事業（2,141,037 円）

成年後見制度の利用促進のため、佐賀市から委託を受け、相談支援、広報・啓発活動、成年後見制度利用促進に向けた委員会の開催を行った。

◆相談者内訳

相談者内訳	件数	相談内容	件数
本人	24	成年後見制度の一般的な内容のこと	29
同居家族	4	申立てや受任に関すること	42
別居家族	21	任意後見に関すること	7
民生委員	2	財産管理に関すること	21
地域包括支援センター	11	相続・遺言に関すること	13
行政	13	不動産処分に関すること	1
施設	9	市民後見人に関すること	2
病院	15	本会の法人後見事業に関する利用方法に関すること	16

介護保険事業所	20	成年後見制度等に関する研修会・勉強会に関すること	1
障がい者サービス支援事業所	9	その他	8
その他	12		
合計	140件	合計	140件

◆地域における権利擁護に関する研修会の開催

研修内訳	回数	参加人数
校区社会福祉協議会研修会、老人センター教養講座、地域包括ケア会議、関係機関職員研修等	9回	283人

◆成年後見制度に関するアンケートの実施

「地域における権利擁護に関する研修会」開催時にアンケートを実施し、成年後見制度に対するイメージや制度の理解などを調査した。

回答数 210名

◆成年後見制度利用促進法における中核機関設置に向けた準備委員会の開催（計4回）

成年後見制度等を必要とする方が安心して制度利用できるよう、地域で支える体制を構築する地域連携ネットワークの核となる、「中核機関」の設置に向けた準備委員会を4回開催した。

準備委員会 メンバー	(準備委員会委員) 弁護士、司法書士、社会福祉士、公証役場、地域包括支援センター、 障がい者支援センター (オブザーバー) 佐賀家庭裁判所
---------------	---

開催数	内容
第1回準備委員会	・佐賀市の中核機関設置について ・佐賀市社会福祉協議会における取り組みの現状について 他
第2回準備委員会	・佐賀市における中核機関の役割・機能について (広報機能・相談機能)
第3回準備委員会	・佐賀市における中核機関の役割・機能について (利用促進機能・後見人支援機能)
第4回準備委員会	・佐賀市における中核機関のネットワークイメージについて ・佐賀市における中核機関の役割と支援のフローチャート案について ・令和4年度計画(案)について 他

④ 移送サービス事業（160,033円）

- ・既存の交通機関による移動が困難な車椅子利用の高齢者や身体障がい者を対象に、ボランティアの協力のもと、車椅子搬送仕様自動車を利用した移送サービスを提供した。(利用対象地域：三瀬村、富士町、大和町松梅地区)

利用登録者：8名 利用回数：延53回 運転ボランティア：9名
※R2 利用登録者：8名 利用回数：延42回 運転ボランティア：7名

⑤ 佐賀市東与賀保健福祉センター管理事業

センター管理、会議室等の貸し出しや利用状況の把握等の管理業務を行った。

大広間		会議室		市民相談室・ビ リヤード室		相談室		調理室	
件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
66	1,024	78	1,295	—	—	72	569	26	812

集団指導室		機能訓練室		診察室		歯科検査室		計	
件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
156	7,727	78	6,829	9	283	4	216	489	18,755

【評価・課題】

福祉サービス利用援助事業や法人後見事業の実施により、利用者の生活の安定や権利擁護につなげた。事業に対するニーズは年々増加しており、引き続き、事業の拡充を図る。

5 生活福祉資金貸付事業（15,530,772 円）

① 生活福祉資金事業（12,623,168 円）

金融機関からの借入れや公的貸付制度の利用が困難な所得の少ない世帯、障がい者や介護を要する高齢者の属する世帯に対し、必要な資金の貸付けと相談援助を行った。また、貸付に結びつかなかった世帯に対して、関係機関へ繋ぐことで切れ目のない支援を行った。

対象世帯…低所得者世帯、障がい者世帯、高齢者世帯、失業中の世帯等

資金種類…生活福祉資金（総合支援資金、福祉資金、教育支援資金、不動産担保型生活資金）

（単位：件）

	生活福祉資金	臨時特例 つなぎ資金	合計	内訳
相談等件数	9 3	0	9 3	総合 1 件、福祉 30 件、不動産 9 件 緊急 2 件、教育 10 件、その他 41 件
令和 2 年度	8 3	0	8 3	総合 5 件、福祉 20 件、不動産 1 件 緊急 17 件、教育 16 件、その他 24 件
貸付件数	0	0	0	
令和 2 年度	0	0	0	

貸付に至らなかったケースについては、今後の生活支援をしていくうえで関係機関等に情報提供し連携を図った…佐賀市生活自立支援センター、地域包括支援センター、社協内地域担当（CSW）、佐賀市役所（生活福祉課・こども家庭課）他

生活福祉資金の特例貸付（コロナ特例貸付）

新型コロナウイルスの影響を受け、休業や失業などにより収入が減少、生活に困窮している世帯に対し貸付ける緊急小口資金及び総合支援資金の相談援助を行った。

（令和 4 年 3 月 31 日現在 金額：千円）

	緊急小口資金	総合支援資金	合計
相談等件数 （累計）	—	—	4, 375 件 （10, 855 件）
申請件数 （累計）	490 件 （1, 632 件）	1, 024 件 （2, 162 件）	1, 514 件 （3, 794 件）
申請金額 （累計）	94, 480 千円 （295, 720 千円）	527, 510 千円 （1, 121, 060 千円）	621, 990 千円 （1, 416, 780 千円）

※1 件の申請に対して 2～3 回の相談を受けることもあるため、相談件数と申請件数に差異が生じている。

※累計は令和 2 年度及び令和 3 年度の合計件数・金額。

② 福祉資金貸付事業（2,907,604 円）

低所得世帯の自立更生のため、他からの資金貸付が困難かつ緊急の場合に 3 万円を上限として貸し付けを行った。

件数（件）	金額（円）
-------	-------

相談・問い合わせ	1 2 6	
令和2年度	1 2 0	
貸付	9 9	2, 5 6 4, 2 5 7
令和2年度	1 3 2	3, 1 0 4, 3 7 8
償還	1 1 7	2, 7 4 5, 9 7 8
令和2年度	1 3 6	2, 7 7 3, 6 5 7

※1件の相談で複数の貸付を行うこともあるため、相談件数よりも貸付件数が多くなっている。

※貸付と償還の件数差は、1件の貸付に対し、最長6回までの償還回数となる場合があるため。加えて生活困窮世帯に対して食糧支援を行った。

【評価・課題】

コロナ禍において収入減少・生活困窮する世帯には、特例貸付の相談や申請受付で生活支援を実施してきたが、個別に課題を抱える対象世帯に対しては、専門機関等へ繋ぐことも含め地域担当職員（CSW）が訪問するなどの支援を行った。また、相談者に対し食料や生活用品の支援を行った。

Ⅱ. 施設経営事業拠点区分（82,622,119円）

1 老人福祉センター事業（69,110,334円）

高齢者が地域で安心して、心豊かに楽しく過ごせる場所を提供するため、市内5箇所（平松、巨勢、金立、開成、大和）の老人福祉センター等を運営した。各センターでは高齢者大学、クラブ活動や季節の行事などを行い、生きがいの充足、積極的な「仲間づくり」を進めている、また健康相談を実施し、健康で明るい生活を営んでもらうための事業の推進に努めた。

① 平松老人福祉センター事業（いきがい館平松）（20,420,915円）

◆年間の利用者数

（単位：名）

	市内	市外	合計	1日平均
男	17,391	758	18,149	
女	10,153	37	10,190	
合計	27,544	795	28,339	106.5

※1月29日から3月6日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館

◆佐賀市平松清風大学（開講日：火曜日ただし8月は休み）

長寿社会の中で、高齢者が積極的に学習に取り組むことで、生きがいを見つけ生活をより充実させることや、地域社会の活動に貢献できる人材を育成することを目的として実施した。

学生数 98名（1年生51名 2年生47名）

入学式 令和3年4月13日

卒業証書授与 令和4年3月15日

講義 一般教養、郷土史、健康、園芸、企画学習（グループ討議、自主企画授業）、1・2年生交流授業

講義数 1年生30回、2年生30回

学生活動 「文集ひらまつ」及び「学校新聞せいふう」の発行、運動会

クラブ活動 グラウンドゴルフ、園芸、絵手紙、パソコン、マージャン

※1月29日から3月6日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休校

② 巨勢老人福祉センター（いきがい館巨勢）事業（17,844,406円）※佐賀市委託

◆年間の利用者数

（単位：名）

	市内	市外	合計	1日平均
男	5,445	46	5,491	
女	5,841	174	6,015	
合計	11,286	220	11,506	43.9

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1月29日から3月6日まで休館

※機械の修理等により、風呂利用を3月7日から4月17日まで休み

◆巨勢シルバーカレッジ（開講日：原則、第1・第3木曜日ただし8月は休み）

高齢者が福祉社会をより深く認識し、より快適な暮らしを高める能力を身につけるとともに地域社会に貢献できる人材を育成することを目標として開設した。

学生数 48名（1年制）
 入学式 令和3年4月15日
 講義 一般教養、郷土史、健康づくり等
 講義数 19回
 修了式 令和4年3月17日

③ 開成老人福祉センター（いきがい館開成）事業（15,618,935円）※佐賀市委託

◆年間の利用者数（単位：名）

	市内	市外	合計	1日平均
男	5,451	0	5,451	
女	2,930	0	2,930	
合計	8,381	0	8,381	38.8

④ 大和老人福祉センター事業（いきがい館大和）事業（15,226,078円）※佐賀市委託

◆年間の利用者数（単位：名）

	市内	市外	合計	1日平均
男	1,738	12	1,750	
女	3,340	33	3,378	
合計	5,078	45	5,123	19.8

◆大和いきがい文化講座（開講日：原則、第3水曜日）

高齢者が福祉社会をより深く認識し、地域社会に貢献できる教養を身につけることを目標として開設した。

学生数 29名（1年制）
 開講式 令和3年4月21日
 講義 ヨガによる健康づくり、郷土史、救急法等
 講義数 12回
 修了式 令和4年3月16日

2 金立いきいの家事業

① 金立いきいの家（いきがい館金立）事業（13,511,785円）※佐賀市委託

◆年間利用者数（大雨洪水のため8/14～17休館、コロナ感染症拡大防止のため1/29～3/6休館）
 （単位：名）

	市内	市外	合計	1日平均
男	2,532	276	2,810	
女	4,716	188	4,904	
合計	7,248	466	7,714	29.6

◆金立いきいの家文化講座（開講日：原則として第4金曜日）

本格的な高齢化社会を迎え、健康で明るい人生を送るために、「未知との出会い」、「人とのふれあい」、「学ぶよろこび」を再発見することを目的に開設した。

学生数 45名（1年制）
 開講式 令和3年4月23日
 講義 一般教養、健康づくり、園芸、郷土史等
 講義数 14回（16回予定のうち1月、2月は中止）
 修了式 令和4年3月25日

Ⅲ. 介護保険等事業拠点区分（22,891,274 円）

1 通所介護事業

要支援及び要介護認定を受けた高齢者が、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、入浴・食事・レクリエーション・口腔ケア・運動・趣味の活動等を通して個別支援に努めたサービスを提供した。

① 開成デイサービスセンター事業（22,891,274 円）

実施日数（日）	延利用者数 （名）	1 日平均（名）
2 5 8	3, 7 8 1	1 4. 6 6

【評価・課題】

介護保険制度改正により、厳しい運営状況が続いている。各種の地域福祉活動を展開するための貴重な自主財源確保に資する取り組みではあるが、事業の継続については検討を要する。

公益事業（17,858,868 円）

Ⅳ. 認可外保育施設運営拠点区分

1 松梅保育所運営事業

松梅保育所運営事業

① 松梅保育所運営事業（17,858,868 円）※佐賀市委託

松梅地区唯一の保育施設として、遊びを通した子どもの育成と「子育て家庭の支援」、「地域の子育て環境づくり」を柱とした事業を計画し、子どもの穏やかな成長を支えた。

開所日数(日)	利用者（名）					
	保育児	幼児	小学生	一般	合計	1 日平均
268	4, 106	198	62	111	4, 477	17

○保育事業

○地域住民・児童生徒との交流事業

【評価・課題】

令和元年 10 月 1 日から市委託事業として運営。適切な運営に努めることにより事業の目的は達成できている。施設の老朽化が進み管理の面で徐々に支障が生じ始めているため、改善に向け市と調整中である。

その他の事業

Ⅴ. その他の事業

1 共同募金・歳末たすけあい募金運動への協力（佐賀県共同募金会佐賀市支会）

日本で唯一法律に基づいて行われる募金活動として、公的な福祉サービスでは支えられない分野の支援を行うため、佐賀県共同募金会佐賀市支会として募金活動を展開し、集まった募金は佐賀県共同募金会に全額送金した。

(1) 赤い羽根共同募金

「届けよう みんなの優しさ 赤い羽根」をメインテーマに、10月1日から12月31日までの3ヶ月間、各種団体などの協力を得て実施した。

(単位：円)

種別	戸別募金	法人募金	街頭募金	学校募金	職域(資材)	その他	合計
本 所	9,267,551	2,235,085	25,658	127,582	1,458,530	185,104	13,299,510
諸 富	914,680	560,000	0	7,590	168,744	0	1,651,014
大 和	1,915,135	171,000	0	4,592	143,420	4,827	2,238,974
富 士	310,000	355,000	0	11,984	113,020	0	790,004
三 瀬	132,300	95,004	0	40,311	14,880	3,000	285,495
川 副	1,418,880	414,000	0	71,529	69,080	0	1,973,489
東与賀	774,000	207,000	0	16,023	39,040	3,446	1,039,509
久保田	754,257	205,000	0	14,040	86,020	0	1,059,317
県共募扱	0	0	0	73,286	0	72,062	145,348
合 計	15,486,803	4,242,089	25,658	366,937	2,092,734	268,439	22,482,660

(2) 歳末たすけあい募金

「つながり ささえあう みんなの地域づくり」をスローガンに、12月1日から12月31日までの1ヶ月間、各種団体などの協力を得て実施し、集まった募金は佐賀県共同募金会に全額送金した。

(単位：円)

種別	戸別募金	その他	合計
本 所	4,152,089	126,743	4,278,832
諸 富	282,030	1,043	283,073
大 和	553,910	54,893	608,803
富 士	111,000	9,020	120,020
三 瀬	37,800	1,730	39,530
川 副	406,280	0	406,280
東与賀	238,800	3,982	242,782
久保田	215,500	0	215,500
合 計	5,997,409	197,411	6,194,820

2 日本赤十字社事業の推進（日本赤十字社佐賀県支部佐賀市地区）

国際救護活動や災害救護活動等の人道的使命に基づき、国内外で事業を実施している日本赤十字社の佐賀市地区として、赤十字事業の普及と事業推進に必要な資金を確保するため社員の確保に努めた。

(単位：円)

	会費・寄付金		会費・寄付金
本 所	10,855,452	川 副	1,998,400
諸 富	1,240,200	東与賀	1,132,500
大 和	2,740,300	久保田	1,077,500
富 士	444,000	合 計	19,677,352
三 瀬	189,000		

(1) 各種講習会

佐賀県支部が開催する各種講習会の開催を積極的に推進するとともに、市内で行われる救急法などの講習に講師又は指導員の派遣調整を行った。

① 2021 赤十字運動月間「防災セミナー」（コロナ感染症拡大予防のため中止）

② 講習への講師（指導員）派遣

救急法：2ヶ所、防災講習：1ヶ所

(2) 防災・減災活動等への取り組みに対する助成

校区自治会及び自主防災組織等が、防災・減災意識の高揚を目的に実施する防災・減災活動及び研修会、講習会等に対して助成金を交付し、地域における日本赤十字社活動の普及と誰もが安心して暮らせる地域づくりの推進を図った。

助成金交付：1 校区

（３）災害義援金の募集・受付

各地で発生した災害などに対し義援金の募集及び受付を行い、集まった義援金は日本赤十字社佐賀県支部を通じて被災地へ送金した。

「平成３０年７月豪雨災害義援金」	2 1 4 円
「令和２年７月豪雨災害義援金」	1 5 9, 1 2 9 円
「令和３年２月福島沖地震災害義援金」	1 5 0 円
「令和３年島根県松江市大規模火災義援金」	8 0 6 円
「令和３年７月豪雨災害義援金」	3 7, 7 8 9 円
「令和３年８月大雨災害（佐賀県）義援金」	3 5 3, 3 5 2 円
「台風９号等大雨災害義援金」	9 円
「ウクライナ人道危機救援金」	6 4 7, 5 5 5 円

（４）火事等の罹災世帯への援助

市民で災害により罹災者が物的・精神的な援護を必要とする場合、見舞金や毛布、日用品等の物資を支給することで、自力更生を支援した。

＊令和３年８月１４日に発生した大雨災害に対し、佐賀市内の罹災世帯に災害見舞品を配布した。

世帯数（人数）	緊急セット	毛布	バスタオル
48 世帯（111 人）	50	111	111

【評価・課題】

共同募金、赤十字の両事業ともに、佐賀市の事務局を社会福祉協議会が併せ持つて取り組んでいる。
両事業ともに、地域福祉の推進と地域の安全安心につながる事業であるため、継続して取り組む必要がある。